

熊谷蓮生一代記

二

L289
7



徳吉蓮生一代記卷之二

目録

弓矢凡徳吉直實と改名初陣高名之事

并老母直實小者割之事

徳吉宇治川合戦高名之事

并小次郎直家橋桁と流之事

源九郎義経一若へ裏向之事

并警尾之郎義久が事

徳吉父子一若継之事

并直實音楽と河感と置之事



熊谷蓮生一代記卷之二

弓矢丸熊谷直實を改名初陣高名し事

并に老母直實に教訓し事

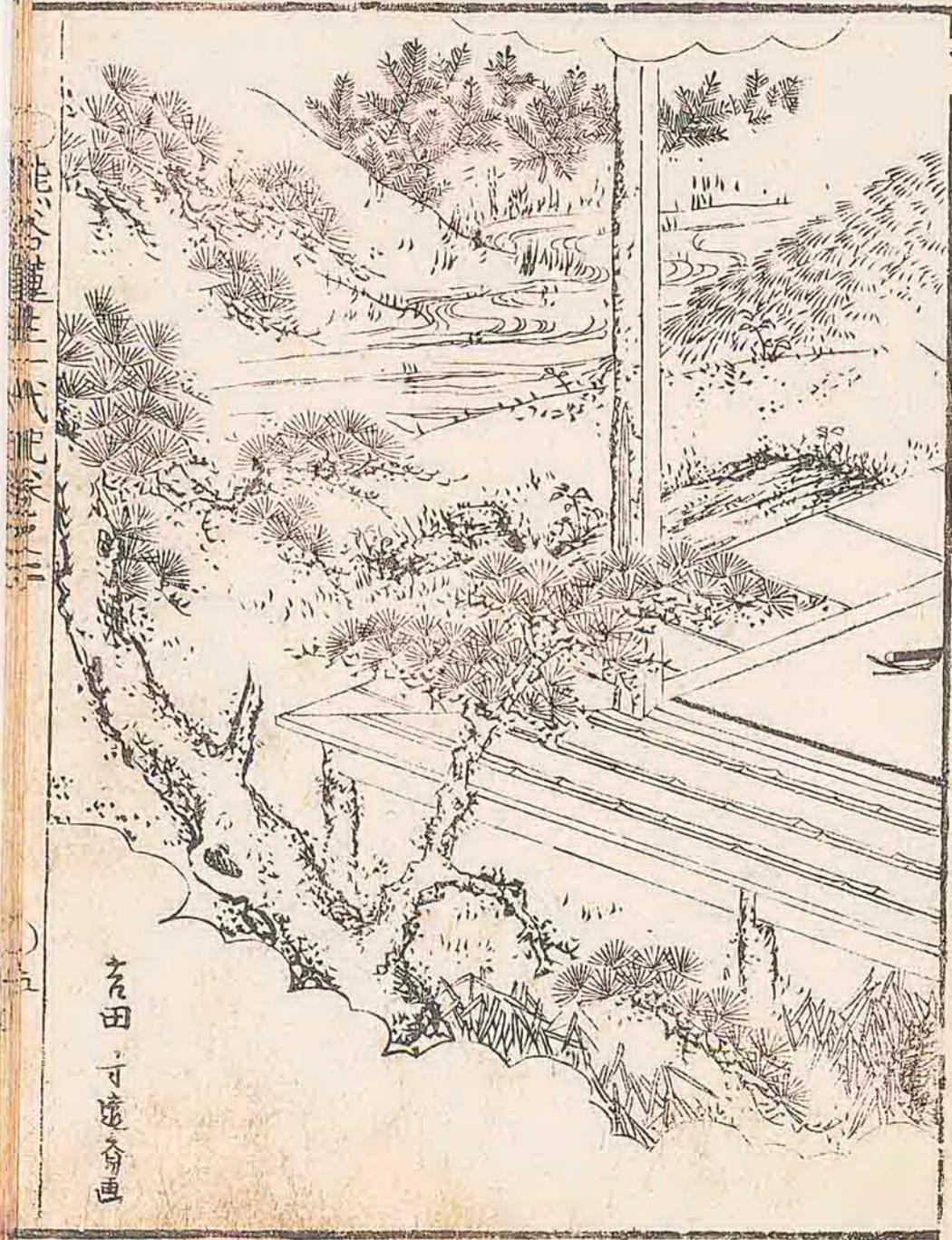
信隆再一併豊方と大魚を食ふ魚ハ其餅と食て終ふ
幸進人ハ其縁を食て是ハ服と食たり也。これをも弓矢丸の教
盛種家あ人の能よりして一命を助り母法も其縁の國
にくらり。叔父久下権頭が幸りて成長たり。熊谷の信隆は其
改め相換國の信人依竹以所義繁が女と婚りて又が所産
寄ふ獲る器を骨格武勇たしく。其子に依竹と名し。今
表ひまは此子けし。巴村の民百姓再び直實が縁を食し。其子
く信隆致ひる。一も都所のなり。平治の亂る源氏ハ大将たる

頭受初ふとぐい嫡子悪源を平に属して内裏の郁芳門を
守り直実十六孫の精兵陸一の勇将方れを電光疾雷れごとく
ちひふ念激して働さけしへ平家の大将小松内府重盛はも老
多あてふ死一生を免れまふ結ぶる義朝天運拙くして源氏悪
討負平家一統は徳威日に熾しく方とを直実も毒の慈母に
恨く聖び居る内ふ父が石領を推頭小押領せり以後直實被
友のおとく方りて重光が代友もして京都の大番に勤仕とそ
時武藏守の傍者等も重光せしが重光不對してそれのあり
是にゆて其傍うと時とんと新中納言知盛小属して都せり
まり一族親類の交りてせりして年月と送る結ぶ治承二年乃
秋古へゆり道りて平家の侍士大庭三郎景親重光の英

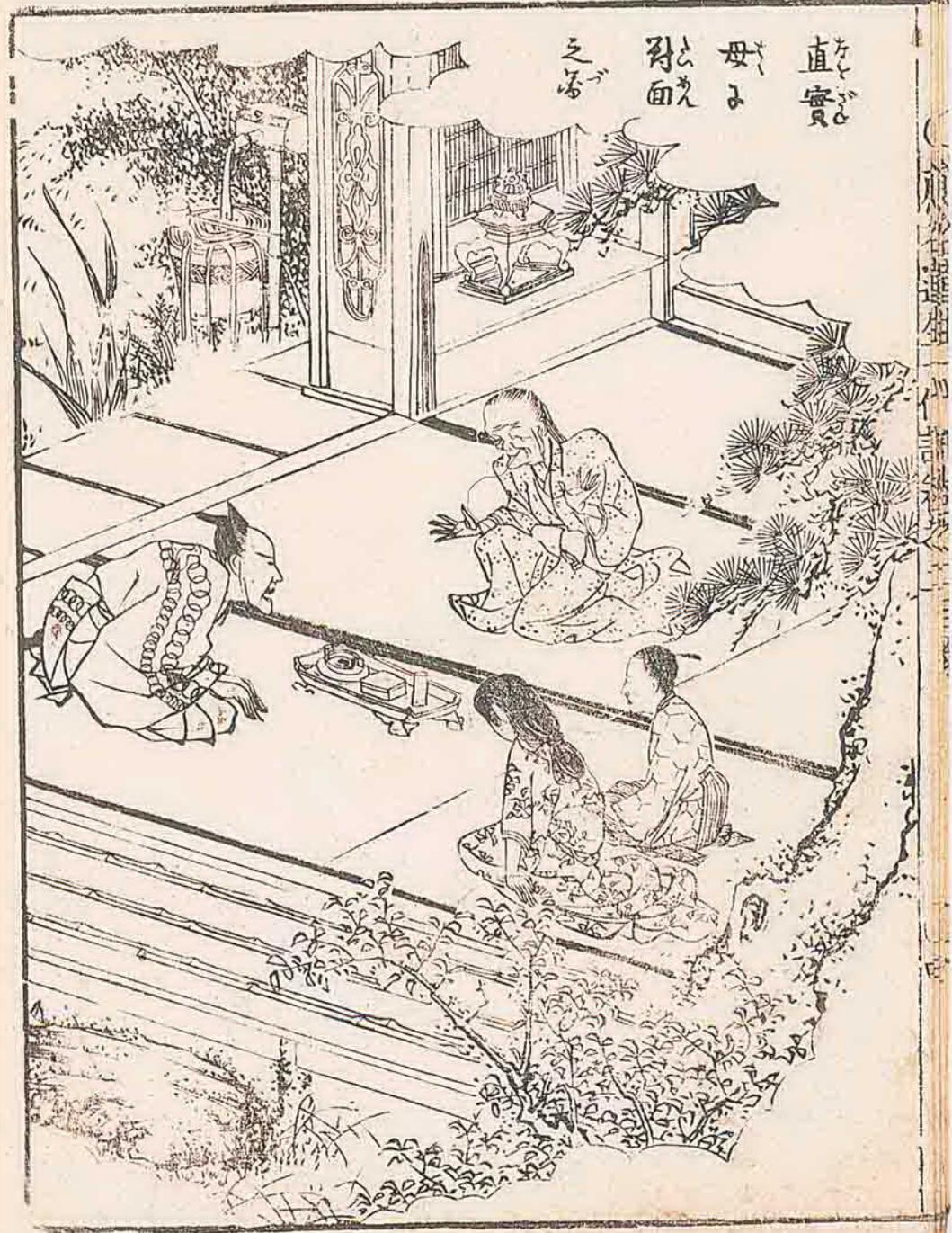
方りて重光平家北祇官三千餘騎の陣一と方りて重光
心方りて従ひ石拂山に合戦お振撃れ重光と取つ合戦終て
重光南吉郷ゆり途中少て我身れよを幸とるに先祖の桓成
天皇は後殿少て代平氏の姓とつども父直貞は入唐唐に親
忠盛のたふ小教言せり則一兄直正直俊中を喜せり我身幼
少なるも先ふとる。教盛唐唐あはの情ふよとて助言せり
たより兼く母のわがう情あふ父がなれも没収せられあふ
押領せり。一お慈命れ地も方り初流れれがもして一生とる
えんと口折きび身方り又流れれを平家か姓方れども我身
ふゆりて死忍故方り公羊傳ふ子もして父の仇と執せり子に
らびと記し亦父の仇も共ふとと頂すもつり。此ふ今平家へ

属して仇の下に居する。亡父兄を恨み、その名をなくおもつらん
 是教ふそひれ。天理も遠くべし。先年、藤原を平らむ終り、八
 戰場の初陣にて、武勇と人よきせん。何の思ふもたず。謀叛
 に組せしめ、武運をひくる。理をもむくふは、友の命を奪ひ、
 佐殿乃生死いさむ志まじ。此大将命を合くして、あまびを
 わげむる。幕も属し、奉こと達せん。後、白河院の流宮を交
 えた。官軍少で、謀叛にあはれ。預り、又幸、武勇もい、父の
 母を救ふ。忠孝あはれ。子孫も、平頼朝の存亡、いんせ
 心を、金石のごとくあり、いさめて。終る、不帰宅し、くれを。老母
 妻子も、くくそ、これ、對面ふせ、まことの、後方、まより、石橋、山
 合戦、入勢、まこと、あ、伊、傍、く、れた、老母、洞、と、ち、か、り、て、ま、ま、

都へ登る時、ふ、何、前、死、終、母、が、あ、お、を、や、つ、と、げ、を、そ、今、う、ま、
 忘、恨、の、事、を、ま、武、士、の、ま、人、と、り、終、ん、考、れ、む、ま、の、ま、と、探、心
 べ、と、方、り。又、三、身、志、て、あ、お、を、得、る、と、い、ふ、も、道、志、ま、い、ら、る、も、あ、
 た、し、身、を、あ、り、や、て、一、生、を、ま、ま、と、つ、ご、も、ん、と、ま、い、ら、道、あ、り、此
 旨、を、ま、ま、と、い、い、命、あ、ら、る、と、傳、へ、母、が、得、り、方、り、と、後、後、彰、り、ふ
 又、け、し、ま、直、美、大、将、り、つ、れ、基、廿、た、び、師、西、せ、し、母、上、の、い、め、を、
 や、ま、せ、ん、ご、こ、あ、り、方、り。それ、は、却、て、い、つ、と、痛、か、ら、あ、孝、の、死、其、ま、
 し、い、つ、つ、方、る、あ、り、方、り、ま、も、い、つ、つ、い、ま、り、ぐ、ん、は、今、今、あ、あ、せ、
 せ、ら、ま、ま、と、奉、休、し、て、や、ま、れ、ば、お、母、明、を、押、し、て、い、つ、今、平、
 家、八、運、の、似、つ、時、源、氏、ハ、仇、と、報、た、ま、き、時、た、ら、又、ま、の、方、り、も、
 仇、あ、る、方、り、方、り。それ、は、仇、を、忘、れ、て、奉、休、へ、似、つ、運、あ、り、



吉田 可遠奇画



直實 母子 之 面

と考の用く。運を欲とする。其家けりげの又まをも。喉
 脈ふたぼる人。大初、細懂をかえり。原、大事と心ひたの
 者、小判、又たけり。せと。侍く。あ、平家とて。して。保氏
 方へ加り。親、又、此、仇、をも。執、その、方も。武運、を。し。つ。れ。と
 言、ま、と。て。し。け。ま。直、実、か。ん。を。し。別、之、村、と。合、せ。母、は、嘗
 訓、感、入、り。玉、教、授、せ。あ。り。伏、候、と。て。居、た。り。し。時、に、
 小、濱、を。ま。り。直、実、か。あ。ぬ。も。石、橋、の。う。ち。へ。ゆ。る。道、を。か
 ら。佐、の。方、を。と。事、し。て。今、も。頼、朝、每、日、義、兵、と。揚、た。り。つ。か
 一、書、お、預、え。し。看、劍、せん、と。心、と。合、意、ま。か。り。て。帰、免、仕、を。ま
 只、今、此、位、と。あ。り。と。母、の、侍、を。直、実、か。知、申、へ。天、の、通、り。あ。り
 か、又、八、丈、の、具、脱、も。か、ん、中、へ、移、ら。せ。ま。り。肝、は、海、で、う、り、し、

ねもつど、あつとあげたり。いん、の、程、を、述、り。母、の、心、を、
 是、に、直、実、は、丸、付、て、婦、洞、を、道、程、方、り。侍、ふ、女、房、も、
 する、に、う、り、し、傳、り、す。甚、後、頼、朝、每、日、義、兵、と、あ、り、し、ま、
 實、子、の、速、延、付、終、下、に、居、り。常、陸、必、佐、竹、對、秀、退、村、の、如、し、然、
 若、平、山、と、名、稱、と、あ、り、し、て。功名、大、く、世、も、名、高、く。そ、の、外、我、場、に
 於、て、身、命、を、顧、む。若、喬、より、も、軽、く、し、て。大、敵、と、七、倍、し、り、し、た。
 後、倉、殿、此、所、然、ふ、あ、づ、り。保、元、の、親、ひ、より、二十、一、返、の、勢、力、
 と、た、り、し、り、る。代、り、し、家、は、傳、承、し、り、る、と、う、り、や

徳谷守治郎 直家 栲栳と流る事

並、小治郎 直家 栲栳と流る事

云、説、元、暦、元、年、正、月、廿、日、朝、日、將、軍、本、方、義、仲、朝、廷、と、性

らるる後やして。猛威をふるて越ゆる。此れは直実天守へひく
大音そりける。澤倉殿乃沖内を。徳治元年直實やまへ
日本第一の剛の者ぞ。此所をかゝるまう。八本なる鉄は内を
鳥名の人かゝる。直実一夫もひくせんそ。丁どまへ一矢もを
兼助が胸れたちを。村抜てはまつた。馬武者二騎を村に
けしむ。将基創しふさう。後げ弓勢に款きも。大よおそひ
殊のよと敷すごく。都とくして道せりる。徳とままらる
歳万人よすられたり。とせ人々りあり

源九郎義経一谷へ敷向し事

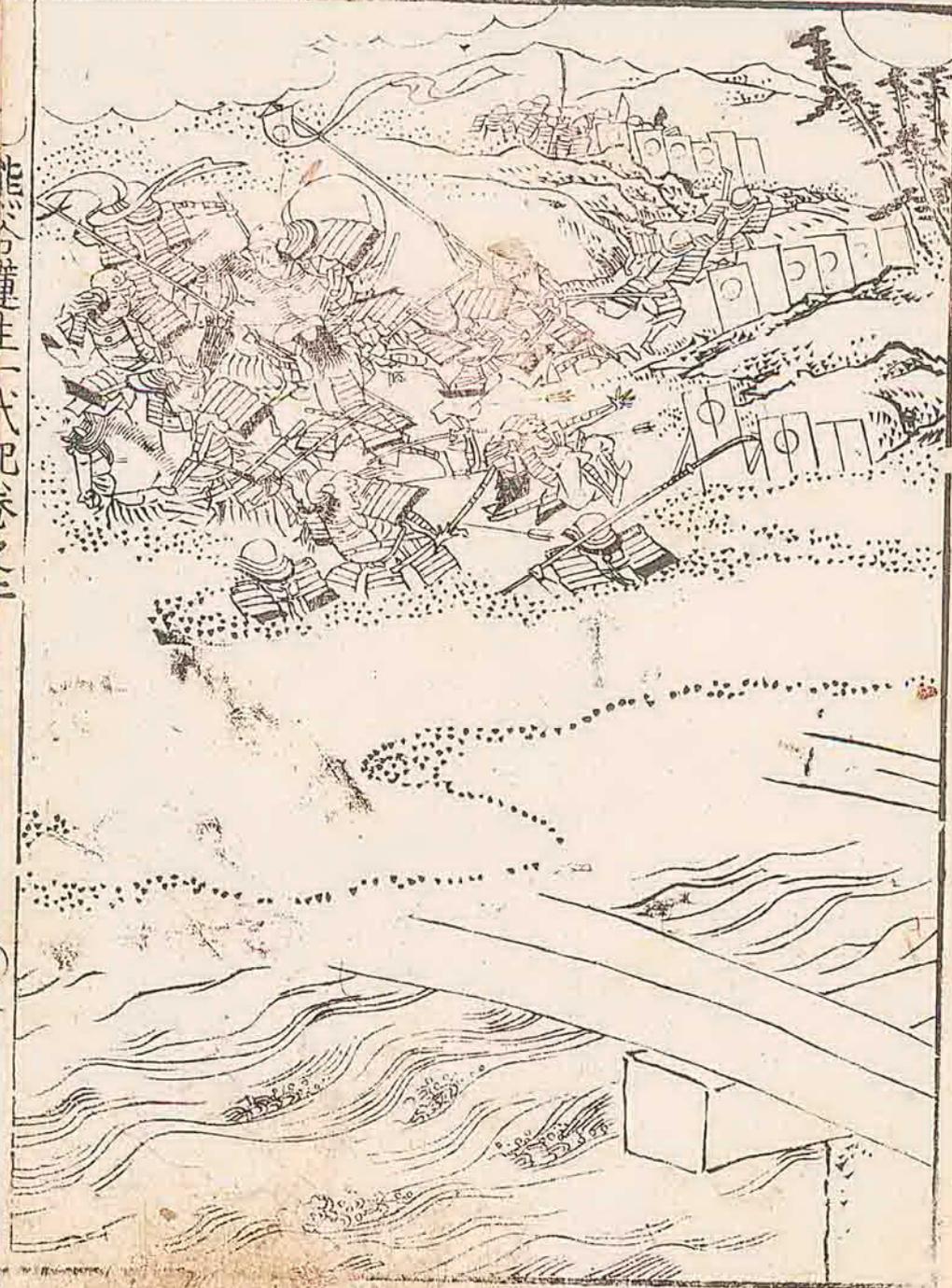
并ニ熊鷹尾三所義久へ事

壽永元年泉の二門ハ本名義仲小發り。西海の波ふ

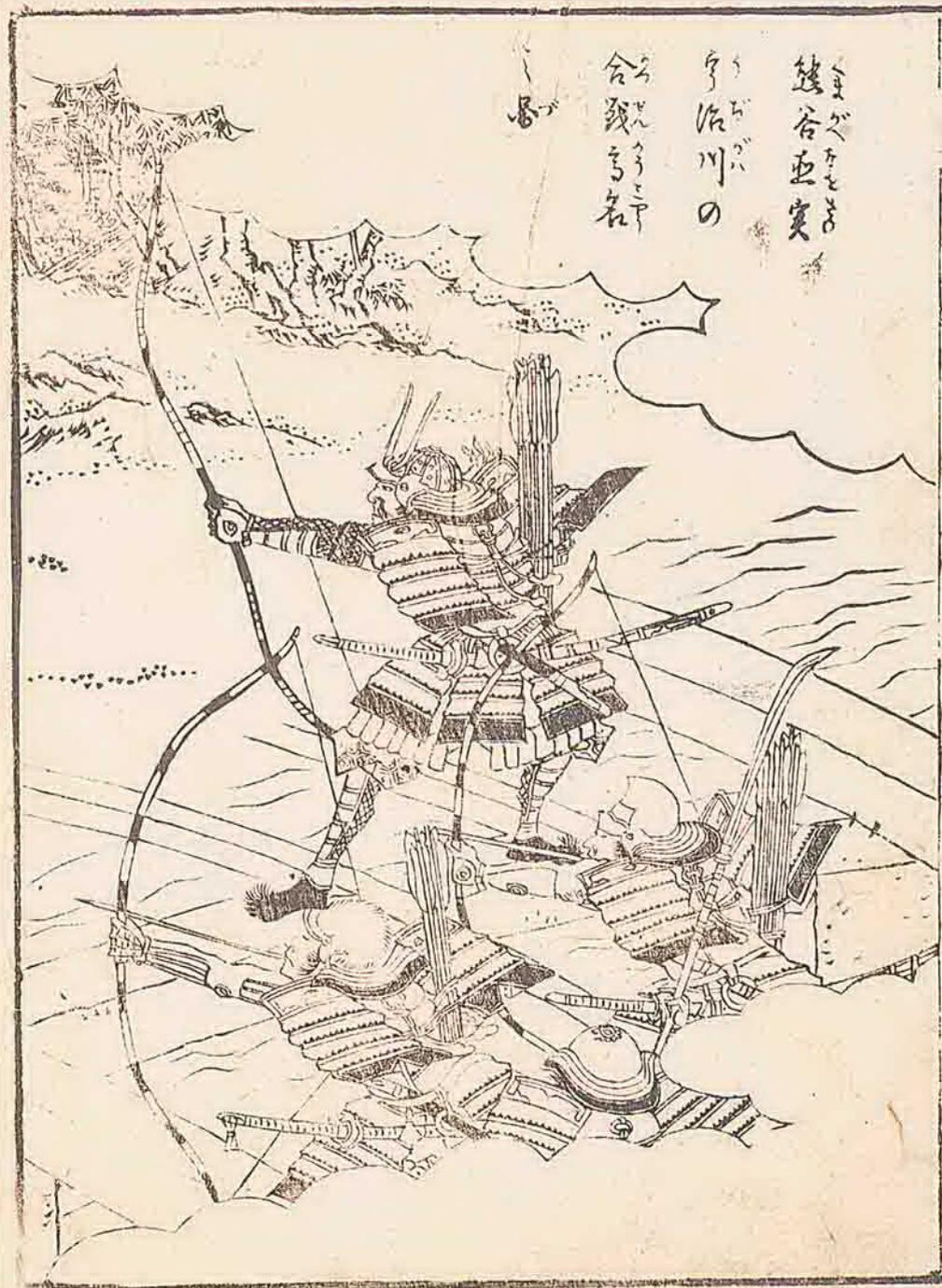
摂州一の者ふ城廓を。捕へて。軍勢日小集るとこそ。一うは退討
時を延とくく。びとて。院宮とらうけ。源氏れお將三河守記頼
九郎判者義経八万六ふ騎勢の軍勢退て。搦手二ふお判
もそ一の者ふ敷向あり。頃ハ元暦元年二月三日。勢詰しと
日。日ふ合あり。く。平家の二門。甚安言あり。なり。一。二。日
ハ。平相國清盛入道の。名日。なり。改後。い。ま。ご。日。年。よ。ご。ふ。を。
ざ。した。名。合。れ。日。限。七。日。ご。ま。ご。く。く。る。る。ふ。延。耐。源。義。経。の。勢。
い。を。ご。大。將。を。ま。ご。一。計。ご。思。惟。し。ま。ひ。く。か。押。一。の。者。は。城。
廓。し。り。ハ。前。ハ。名。を。く。る。海。を。ご。ま。ご。後。ハ。名。を。く。る。ふ。ご。ま。ひ。
西國第一乃要者なり。ふの。お。ハ。筆。つ。を。り。中。あ。り。鉄。搦。が
峯。平。鷲。越。よ。か。り。丹。波。路。を。歴。て。三。草。山。よ。り。出。て。一。の。者。の。後。

千人ひよどり越より。不意に故城乃志申へ落すを。一こそ、
同五日二万余騎の勢と二子ありて七千余騎と田代の冠
者信隆に土肥の所実平とつけて三州ふ此西にありて
此平家の大将。新之位中将知重。小和少将有盛の陣は
お討とぞありける。知盛は陣より沖へして。軍八七日も延
びせり。志むしく体及せしやこそ。澄おを脱すとも難く
を所よりける。此時源氏の猛勢一とび狼烟とあげて孫波
とつり。二五三と攻くまを。平家此陣より入りて。不
意をうこそ。大よ仰天し。一隊の糧をたぐひお合つたき
る馬は敵とて用事する。若敷とあつて。源氏の勢は出
とせん。是より敵と退討し。おとす敵とくも休て。うらり

軍勢都合百八十人。平家ハ遠く一の音へ近きる。分母
わごまかりかりし事。もろたり。おも九郎神曹子義経。こも日
乃。紫米ハ青地綿の直衣。おる。東系威の糧と着し。馬ハ坂東
に名もろ丸青海波といふ。強足たり。今な見彩朝よりた
まろを。厚総うけて騎よりける。相志がふ。中少の。志は。吉義
之。大内右衛門尉惟義。ふ。右三郎義範。齋院波。良親。徳
田代。冠者。信隆。大河。戸。左。郎。廣。行。土。肥。次。郎。實。平。二。浦。十。郎
義。連。糟。久。右。左。有。事。平。山。武。者。所。季。重。平。佐。子。左。郎。為。基
熊谷次郎直實。同小次郎直家。小河小次郎祐義。山田右郎
重澄。原三郎清益。猪俣平六。已上二万余騎。搦まうとむ
く。い。る。頃。ハ。夜。更。七。日。傳。令。烈。々。も。ろ。り。け。小。實。刻。り



徳谷五実
多治川の
合戦の名



九龍義經。常獲れ武士七十餘騎と擲んで一の居れ後の心
ひまらう越にかりり。決揚ヶ峯。降伏せらる。雅二の志
早。青月も入果て暗さくく。義經武藏坊とまよひて
例の大後松のこのまを長りのれとて。若の民前さく
り。火とさるらる。何れを焦して。死も白日に
れ。雪うく。と。路をま。老をま。の。事。内。せ。諸將聲
とひそめて。ゆく。西。彌。師。の。家。と。お。あ。て。人。家。を。到。り。
弁。ま。け。ま。あ。り。て。い。ま。ま。の。次。七。旬。余。と。い。へ。老。人。ま
婦。あり。武。藏。坊。は。二。人。ま。り。て。け。い。何。と。い。ふ。又。ま。婦。の。若
ま。子。ハ。ち。れ。う。と。あ。ひ。ら。ふ。老。翁。と。い。て。け。い。の。松。揚。の。境
なる。丹。生。山。田。と。い。ふ。事。あり。我。は。け。地。も。お。あ。て。年。を。い。ま

山。籠。ち。り。ま。り。の。子。を。り。り。て。い。ま。ま。の。次。七。旬。余。と。い。へ。老。人。ま
中。を。り。と。い。ふ。事。あり。我。は。け。地。も。お。あ。て。年。を。い。ま
ち。る。究。ま。れ。若。者。か。え。り。来。り。け。い。を。即。年。を。い。ま。と。い。い。
た。い。義。經。の。御。前。ま。り。大。將。ま。ご。存。候。ま。り。と。い。て。これ。猶
利。の。前。表。ち。り。と。い。て。左。方。一。振。僅。一。頃。も。一。之。と。た。ま。り。
其。と。講。の。一。言。と。た。ま。り。て。朝。野。尾。三。郎。義。久。と。い。て。名。を。い。ま。
直。子。君。長。け。横。濱。へ。う。ず。り。て。義。經。奥。別。の。衣。川。ま。り。と。い。て。
隠。を。ん。伊。賀。村。に。ま。り。と。い。て。名。を。い。ま。と。い。て。直。子。君。長。け。衣
更。六。日。れ。教。守。げ。り。一。子。小。次。郎。正。家。と。い。て。名。を。い。ま。と。い。て。
の。明日。の。軍。に。一。方。の。先。陣。と。い。て。源。平。兼。朝。と。い。て。名。を。い。ま。と。い。て。
と。い。て。源。平。兼。朝。の。所。感。も。あ。げ。り。子。孫。の。ため。お。名。を。あ。げ

ぐやとねのちう。ちうれで今宵對經の陣とけまをて。
 播磨の大崎ふかり。平家乃一口ことりたる。一の谷の城乃
 一番をよとせむやねのちう。平山が東の道乃安内のこととかせし
 花よぞんむらちう。平山が東の道乃安内のこととかせし
 こもも争くぞんすなり。又義経のふ大将の人よ先陣
 かくをさふらん人よあしむ。ちうれでいふもふつこすももね
 ちう朝のあふくむ。疾くつそぐせむてかせむ。重安を
 て今んも寅の刻なり。時分はよし。義経も人よ辰三時
 ちうちうふれくれし。浪邊をゆて一さんよ一の谷
 本へてせむらなる。徳吾その日れおあまし。碓氷の重安は
 家の破旭の一双を著し。東家城の徳吾は

たる兎大仲兼計征矢よ重安のちをたぐえ。紅の母家
 をかけ。橙をみももとのふ名も小徳。然とせふりけり
 そとく。此馬を橙を帯毛しり。徳吾直家が馬銀。橙
 ちういふものあり。李緒が流をもつてま。伯耆が徳も
 ぶれど。自然とふ妙と得たり。あつれ徳吾よ鼠の坊
 二百を橙をよあ。當時保平れたういふ。備をもももじ。
 山をも橙つぎさ名馬をももも。いふも。命も權を著し
 奥州一のたふあふちう。口才まのるを買たり。
 此馬か一軍々ももも。運し。徳吾し。て穆王の
 八幡園。徳吾兄馬頂羽が鳥雅ももも。さく。芳なり。
 おりももも。又小次郎が也。練費も。伏居。徳吾も。

に履繩目乃種を着し。毒意の征久も重版のうらむのち
てねあづく紅乃母衣をわけ馬いあふぬとらふ。奥品柳葉
の牧よりわてきもにせぬ後足ちり。二騎相かき一人
まゝりありさむ。常し〜〜〜

慈母又父子の苦難の事

并ニ直實音楽と同感と僕も

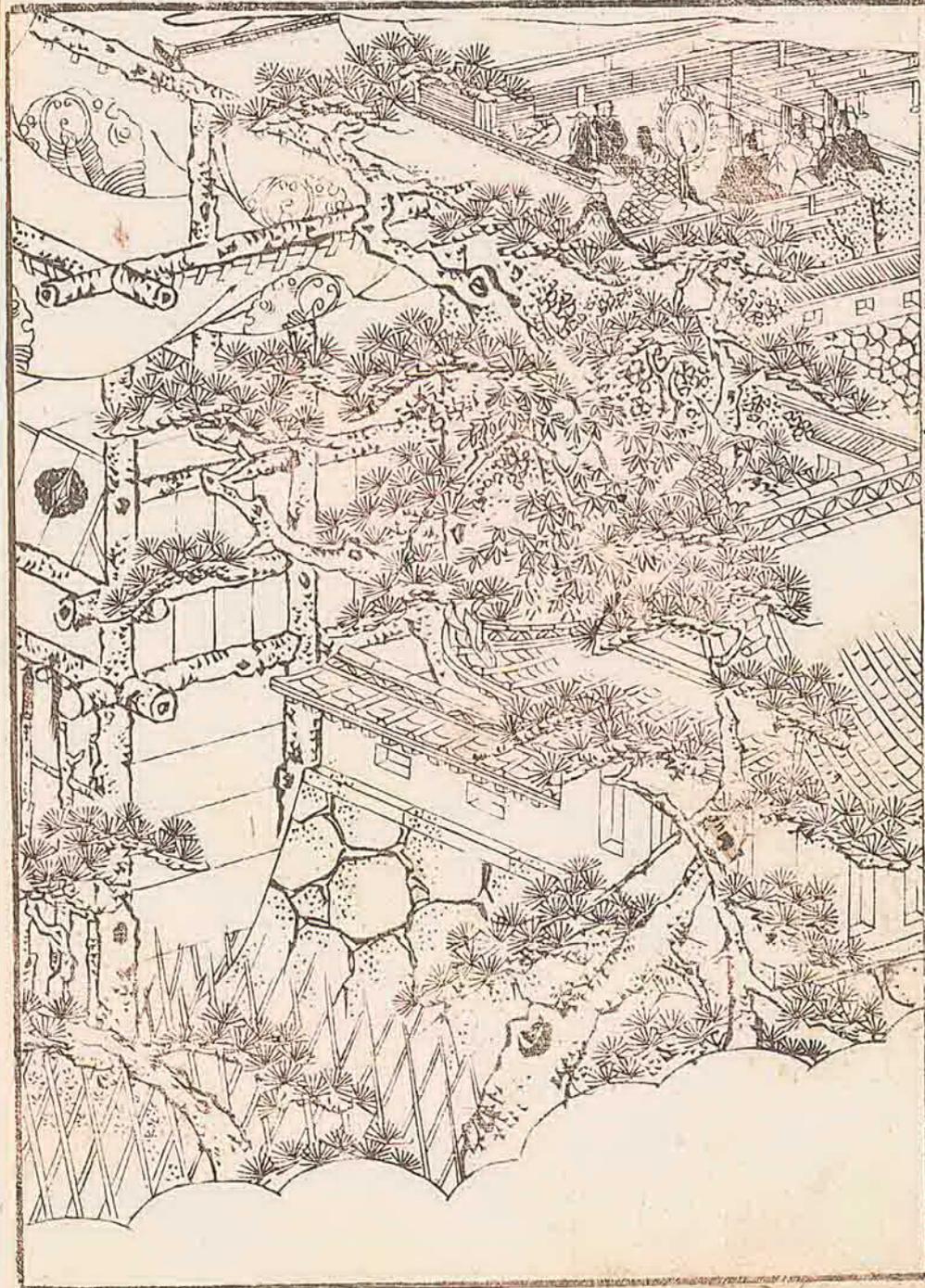
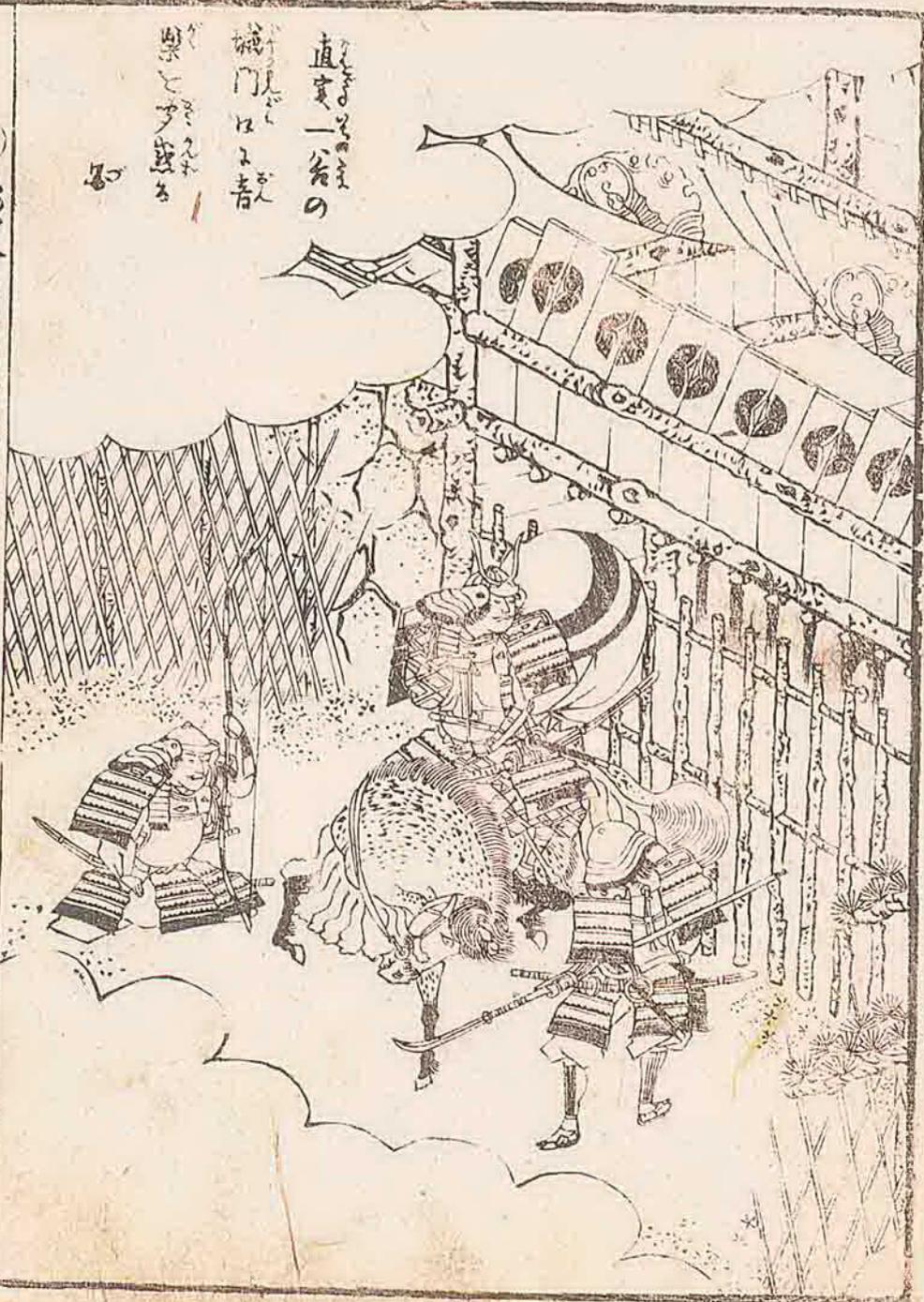
去やふ慈母直實の又子。九郎御曹子劉經の源伍を
うねる。浦乃海大と目あてやして。源乃源遠成西へ。
あやふたかびくお〜〜一の若れ大あ〜〜を
お〜〜平山武者所。あまも慈を〜一のあ〜と
い〜〜ひ〜〜お〜〜の事自後の事あふ御威の種

一。二ツ川龍の母衣と有。武藏必好塚をたてるたがた
の目ふサ〜源家れありけは。目油毛と名け〜一物
乃名もあぞ孫たり。又家習り〜あ。御名一人つれこ
馬をひく。孫持ともふる。後三騎三平山乃関を〜引
りし。須磨の浦一の若しを近しけ。か〜あ〜む〜ら〜に
武者一騎恐〜う〜けを誰ち〜ん〜た〜ぬ〜か〜成田五郎
家正ちり。平山が〜い〜と〜ゆ〜逸おち〜あ〜す〜し〜て〜足跡の
かたうふま〜と。義心ひ〜ひ〜に〜ひ〜あ〜て〜サ〜ら〜の。平山家の軍勢〜
ふ小野系鉄よひ〜う〜て〜あ〜方〜り〜源氏と中〜の〜あ〜て〜ら〜つ
〜と〜支〜度〜ら〜〜。お〜所〜〜と〜れ〜こ〜あ〜ま〜方〜を〜中〜
一大事〜ら〜。〜と〜先陣〜を〜ら〜も。誰〜の〜代〜へ〜あ〜ら〜

後陣の勢をまら合せてすまゝと申けしむ。平山は
 ぞのひまげくく休ん歩らる。成田五郎平山と
 相せりと相ひ甲れ備を志し一打あて一人を
 せしゆく。重をさそいたるれゆらうき馬を
 あづと合せて馳ゆけた。成田あがりて
 城やあひが馬の弱ふしてゆ遠まつまぶら
 斬を言と申たり。武士の情も強うん馬一
 平山の取もかけど折とる。遠くゆきのびて
 成田が馬をさくもあまうれ懸きに
 せざりつる。武士の情あはれ懸きのあ勢と

邊のよま勢をて通りける。成田後より
 重の成田が追付ぬまふと藤原を踏
 あまだ。その態あふ先をかけしとあひ
 ちをさゆく。態あふまふか一陣にす。一
 あまあして。城の要をうかひらふ。山
 のを渡す。大木を控く。大木を伐せし
 一の首の檜とあげ。西國九丹の軍勢
 等難を総て長刀あはれつる。

直実一合の
城門はよ春
景とす哉と



ちり。後、（一）鞍馬敵百之。南、（二）北、（三）方、（四）の海、（五）面、（六）より敵、（七）百、（八）艘、（九）の、（十）兵、
 船、（十一）大、（十二）旗、（十三）の、（十四）旗、（十五）の、（十六）旗、（十七）の、（十八）旗、（十九）の、（二十）旗、
 とく、（二十一）れ、（二十二）の、（二十三）の、（二十四）の、（二十五）の、（二十六）の、（二十七）の、（二十八）の、（二十九）の、（三十）の、
 嵐、（三十一）涼、（三十二）しく、（三十三）て、（三十四）隊、（三十五）伍、（三十六）乃、（三十七）辨、（三十八）令、（三十九）嚴、（四十）重、（四十一）と、（四十二）て、（四十三）た、（四十四）く、（四十五）い、（四十六）つ、（四十七）か、（四十八）か、
 天、（四十九）魔、（五十）れ、（五十一）ら、（五十二）つ、（五十三）つ、（五十四）も、（五十五）あ、（五十六）ぶ、（五十七）き、（五十八）城、（五十九）の、（六十）い、（六十一）は、（六十二）く、（六十三）さ、（六十四）り、（六十五）く、（六十六）る、（六十七）。（六十八）然、（六十九）れ、（七十）も、
 然、（七十一）る、（七十二）乃、（七十三）父、（七十四）子、（七十五）少、（七十六）し、（七十七）も、（七十八）懐、（七十九）せ、（八十）ど、（八十一）。（八十二）あ、（八十三）も、（八十四）い、（八十五）ま、（八十六）ご、（八十七）め、（八十八）と、（八十九）な、（九十）れ、（九十一）さ、（九十二）ら、（九十三）ふ、
 城、（九十四）の、（九十五）あ、（九十六）ら、（九十七）お、（九十八）れ、（九十九）よ、（一百）せ、（一百一）た、（一百二）音、（一百三）あ、（一百四）げ、（一百五）て、（一百六）名、（一百七）の、（一百八）り、（一百九）け、（二百）ら、（二百一）い、（二百二）じ、
 の、（二百三）團、（二百四）れ、（二百五）任、（二百六）人、（二百七）松、（二百八）書、（二百九）丸、（三百）に、（三百一）然、（三百二）然、（三百三）然、（三百四）然、（三百五）然、（三百六）然、（三百七）然、（三百八）然、（三百九）然、（四百）然、
 在、（四百一）家、（四百二）十、（四百三）六、（四百四）家、（四百五）一、（四百六）の、（四百七）若、（四百八）れ、（四百九）か、（五百）ら、（五百一）り、（五百二）れ、（五百三）先、（五百四）陣、（五百五）ち、（五百六）ら、（五百七）ら、（五百八）ら、（五百九）ら、（六百）ら、
 ら、（六百一）り、（六百二）ん、（六百三）く、（六百四）く、（六百五）い、（六百六）楯、（六百七）乃、（六百八）表、（六百九）お、（七百）う、（七百一）け、（七百二）出、（七百三）て、（七百四）然、（七百五）る、（七百六）台、（七百七）が、（七百八）た、（七百九）り、（八百）れ、（八百一）切、（八百二）味、
 かん、（八百三）く、（八百四）や、（八百五）ら、（八百六）も、（八百七）樂、（八百八）と、（八百九）な、（九百）ら、（九百一）へ、（九百二）て、（九百三）と、（九百四）せ、（九百五）ま、（九百六）り、（九百七）ま、（九百八）じ、（九百九）も、（一千）。後、（一千一）あ、（一千二）ら、（一千三）て、（一千四）出、（一千五）向、

若、（一）き、（二）な、（三）く、（四）時、（五）を、（六）交、（七）う、（八）と、（九）射、（十）り、（十一）ら、（十二）ら、（十三）。然、（十四）る、（十五）城、（十六）と、（十七）白、（十八）服、（十九）と、
 松、（二十）城、（二十一）深、（二十二）入、（二十三）を、（二十四）か、（二十五）ら、（二十六）り、（二十七）體、（二十八）と、（二十九）平、（三十）家、（三十一）の、（三十二）陣、（三十三）よ、（三十四）ら、（三十五）ら、（三十六）ら、（三十七）ら、（三十八）ら、（三十九）ら、（四十）ら、
 後、（四十一）代、（四十二）お、（四十三）送、（四十四）さん、（四十五）と、（四十六）行、（四十七）の、（四十八）お、（四十九）ち、（五十）ら、（五十一）。我、（五十二）と、（五十三）あ、（五十四）も、（五十五）り、（五十六）ん、（五十七）と、（五十八）れ、（五十九）あ、（六十）つ、（六十一）た、
 本、（六十二）戸、（六十三）を、（六十四）開、（六十五）て、（六十六）射、（六十七）て、（六十八）出、（六十九）。然、（七十）る、（七十一）乃、（七十二）父、（七十三）子、（七十四）に、（七十五）合、（七十六）組、（七十七）や、（七十八）ら、（七十九）名、（八十）を、（八十一）た、
 何、（八十二）の、（八十三）音、（八十四）と、（八十五）せ、（八十六）ざ、（八十七）り、（八十八）ら、（八十九）ま、（九十）た、（九十一）。り、（九十二）ま、（九十三）く、（九十四）考、（九十五）を、（九十六）あ、（九十七）り、（九十八）て、（九十九）富、（一百）山、（一百一）水、（一百二）流、
 二、（一百三）角、（一百四）を、（一百五）れ、（一百六）我、（一百七）ひ、（一百八）に、（一百九）名、（二百）と、（二百一）ま、（二百二）ら、（二百三）り、（二百四）ら、（二百五）ら、（二百六）ら、（二百七）ら、（二百八）ら、（二百九）ら、（三百）ら、
 悪、（三百一）七、（三百二）を、（三百三）備、（三百四）わ、（三百五）ち、（三百六）れ、（三百七）。所、（三百八）く、（三百九）れ、（四百）れ、（四百一）合、（四百二）我、（四百三）は、（四百四）お、（四百五）ち、（四百六）揚、（四百七）あ、（四百八）ら、（四百九）ら、（五百）ら、（五百一）ら、（五百二）ら、（五百三）ら、（五百四）ら、（五百五）ら、
 お、（五百六）い、（五百七）せ、（五百八）ぬ、（五百九）く、（六百）喚、（六百一）ら、（六百二）く、（六百三）強、（六百四）め、（六百五）が、（六百六）ま、（六百七）ま、（六百八）も、（六百九）。只、（七百）城、（七百一）戸、（七百二）隔、（七百三）て、（七百四）ら、（七百五）ら、（七百六）ら、（七百七）ら、（七百八）ら、（七百九）ら、（八百）ら、
 乙、（八百一）面、（八百二）れ、（八百三）あ、（八百四）ら、（八百五）ら、（八百六）ら、（八百七）ら、（八百八）ら、（八百九）ら、（九百）ら、（九百一）ら、（九百二）ら、（九百三）ら、（九百四）ら、（九百五）ら、（九百六）ら、（九百七）ら、（九百八）ら、（九百九）ら、（一千）ら、
 小、（一千一）次、（一千二）郎、（一千三）よ、（一千四）ら、（一千五）ら、（一千六）ら、（一千七）ら、（一千八）ら、（一千九）ら、（二千）ら、（二千一）ら、（二千二）ら、（二千三）ら、（二千四）ら、（二千五）ら、（二千六）ら、（二千七）ら、（二千八）ら、（二千九）ら、（三千）ら、
 甲、（三千一）を、（三千二）射、（三千三）ら、（三千四）ら、（三千五）ら、（三千六）ら、（三千七）ら、（三千八）ら、（三千九）ら、（四千）ら、（四千一）ら、（四千二）ら、（四千三）ら、（四千四）ら、（四千五）ら、（四千六）ら、（四千七）ら、（四千八）ら、（四千九）ら、（五千）ら、

兼とやうし。後乃九里山のりて笛とく。此曲よ白法と言御の情を
 智れ音の頃秋の末めで。征衣垢つき。杖を握やうかして。この事
 子と怒しくといふ。く軍役して。糧乏しく。海をこぼひ山曲をこぼ
 義ふ耐るるや。こが我とくと落して。聖母のみまを唐氏のこぼちりし
 横笛の音を傳せし由あり。又上吉の禮樂をひて天下を治め。十二律を
 之れて人を和し。情性をやまひ。人材を育し。律紙を奉る。大地を
 動かし。しる事。こが聖賢れ嚴ち。罰あり。

徳名蓮生一代記卷之二終

慶應二年

意十月末之

権作端岩川村

箱谷行六

